

日露青年交流センター
2018年度 日本語教師派遣事業

帰国報告書



アストラハン国立大学

桜場 由希

(1) 年間業務日程

2018年8月29日	現地着任
2018年9月3日	前期授業開始
2018年12月29日	前期授業終了
2019年2月11日	後期授業開始
2019年6月15日	後期授業終了
2019年7月5日	帰国

(2) 赴任校の概要

- ・ 大学名 アストラハン国立大学
Астраханский государственный университет
Astrakhan State University
- ・ 学長名 マルケロフ コンスタンチン アレクセエヴィッチ
Маркелов Константин Алексеевич
Markelov Konstantin Alexeevich
- ・ 学部 外国語学部
Факультет иностранных языков
Faculty of Foreign Languages
- ・ 学科名 東洋言語学科
Кафедра восточных языков
Chair of Asian Languages
- ・ 所在地 г. Астрахань, ул. Татищева, 20а
20a Tatischev Str., Astrakhan
- ・ 電話番号 +7-8512-49-41-56
- ・ 国際部担当者 ボチャルニコヴァ イリーナ ヴィチェスラヴォヴナ
Бочарникова Ирина Вячеславовна
Bocharnikova Irina Vyacheslavovna
- ・ 日本語教育コース設置年 2008年

- 日本語コース責任者と役職及び連絡先

サヴィノヴァ アリーナ ヴァレリエヴナ
准教授

Савинова Алина Валерьевна

Savinova Alina Valerievna

japanese.aspu@gmail.com

- 日本語コースカリキュラム

学部学科	学年	授業数 (週)		学生数	日本語能力
		前期	後期		
外国語学部 日本語専攻	1年生	1-2 ¹	1-2	13人	日本語能力試験 N5 レベル
	2年生	1-2	3	9人	日本語能力試験 N4 レベル
	2年生	1-2	3	7人	日本語能力試験 N4 レベル
外国語学部 英語専攻 (第2 外国語としての 日本語)	2年生	1	1	7人	日本語能力試験 N5 レベル
通訳翻訳コース (副専攻として の日本語)	2年生-4年生 (一部卒業 生)	1	2	12人	日本語能力試験 N4 レベル
有料講座 初級		2 (60分)		6人	日本語能力試験 N5 レベル
有料講座 入門		1 (120分)		6人	日本語能力試験 N5 レベル

- 日本語コースの設置目的

アストラハン国立大学における日本語教育は、2006年に開催したナノテクノロジーのセミナーに日本人の専門家が参加し、その際の通訳を講師として技術系の日本語教育が始まったことにさかのぼる。2008年には外国語学部において日本語教育が始められた。現在では、国際交流基金による日本語能力試験の実施会場となっている。また、神奈川大学、関西大学との協力に基づき、毎年8月には日本人学生を留学生として受け入れている。

¹ 隔週開講のため、週2回と週1回のスケジュールとなった。授業数は、報告者が担当したものを記載。

- ・日本語教師数 4名（日本人教師：報告者1名、ロシア人教師：3名²⁾）
- ・日本語履修学生の卒業後の進路
今年度、日本語履修学生の卒業生はいない。

（3）赴任者の日本語教育業務

- ・年間のシラバス

外国語学部 日本語専攻 1年生	
教科書	『まるごと入門 A1 かつどう』『まるごと入門 A1 りかい』『まるごと初級 1 A2 かつどう』『まるごと初級 1 A2 りかい』『わたしのにほんご』『毎日練習！リズムで身につく日本語の発音』『日本語発音アクティビティ』『BASIC KANJI』『Японский язык для начинающих 1 часть』
授業内容	授業の最初の10分間は、発音の時間に当てた。前期はアクセントを意識して、教科書の単語をペアで確認しながら、読む練習を中心に行った。体を使って高くなる部分は立ち上がり、低くなる部分は座ることで、アクセントを体感的に理解できるような練習も取り入れた。後期はCDを聞いて発音を繰り返し、アクセントだけでなく、イントネーションにも注意を向けた。文法学習では新出語彙の確認をした後、「まるごと」シリーズの「かつどう」で文法について気づきを促し、「りかい」でさらに文法理解を深めた。 漢字の授業は、前期と後期共に隔週で行った。導入では絵から漢字を想像し、読み方と書き順を確認した。その後、読みの問題と書きの問題に取り組んだ。書きの問題では全員で答えを黒板に書き、学生自らが正しい答えか確認した。毎回宿題として、漢字の練習プリントを配布し、次の授業ではその中から漢字テストを実施した。
評価方法	出席、授業態度、学期末試験を総合し、ロシア人教師と相談の上で評価を行った。
所見	どの学生も日本語学習に対する意欲は高く、多くの学生が学習歴1年未満にも関わらず、日本語能力試験の受験に挑戦した。母国で1年間日本語を学習した学生がおり、クラスで中心的な存在となっていた。報告者との会話は、その学生から始まることが多く、その学生1人だけが発言して終わらないよう気を配った。これまでの文法知識と発音練習を基礎として、来年度は発言が少ない学生からも発話があることを期待したい。

²⁾ 3名のうち、1名は育児休暇取得中。

外国語学部	日本語専攻 2年生 (2クラス)
教科書	『できる日本語』『まるごと初級1A2 かつどう』『まるごと初級1A2 りかい』『まるごと初級A2 かつどう』『まるごと初級A2 りかい』『日本語発音アクティビティ』
授業内容	<p>授業の最初の10分間は発音の時間に当てた。前期は拍を意識して手の動きをつけながら、日本語の童謡やわらべ歌を読んだ。後期はイントネーションを自然な日本語に近づけるため、CDを聞いて何度も発音練習を繰り返した。</p> <p>文法では語彙確認をした後、「まるごと」シリーズの「かつどう」で文法について気づきを促し、「りかい」で文法理解を深めた。総まとめとして既習した文法を使い、3分程度のビデオ撮影を行った。2年生のクラス内で、そのビデオから発音や文法面で良い点と悪い点のフィードバックを行った。教科書の文法学習にとどまらず、日本語によるアストラハンの地図を作成したり、七夕の願い事を書いたりなど日本語を使用した活動も取り入れた。</p>
評価方法	出席、授業態度、学期末試験を総合し、ロシア人教師と相談の上で評価を行った。
所見	前期はロシア人教師が担当する文法授業の時間が多かったものの、後期は報告者が担当する授業時間が多くなった。そのため、ロシア人教師が教えていない新出文法も丁寧に教えるよう心掛けた。その結果、学生たちは既習した文法や語彙をすぐに使用して会話することができるようになった。1名の学生がモスクワ国際学生日本語弁論大会に参加したことで、さらに日本語学習に意欲を高めるようになった。その学生の存在は、他の学生にも良い影響を与えている。

外国語学部	英語専攻 2年生
教科書	『Японский язык для начинающих 1 часть』『まるごと入門A1 かつどう』『まるごと入門A1 りかい』『まるごと初級1A2 かつどう』『まるごと初級1A2 りかい』『毎日練習！リズムで身につく日本語の発音』『日本語発音アクティビティ』
授業内容	ロシア人教師が準備したテキストを使用し、文法学習を中心に行った。後期の授業最後には、イントネーションを意識した発音練習も行った。
評価方法	出席、授業態度、学期末試験を総合し、ロシア人教師が評価を行った。
所見	話すことが好きな学生が多く、毎回学生から日本語で質問されることが多いクラスであった。2名の学生が個別に日本語の学習を進め、日

	本へ留学することができた。学習進度はゆっくりではあるものの、確実に日本語を定着させることができ、教科書の最後の文法であるテ形の学習を終わらせることができた。
--	--

通訳翻訳コース	
教科書	『まるごと初級 1 A2 かつどう』『まるごと初級 1 A2 りかい』『まるごと初級 A2 かつどう』『まるごと初級 A2 りかい』『マンガでわかる実用敬語初級編』
授業内容	ロシア人教師が準備したテキストを使用し、文法学習を中心に行った。後期には、敬語の勉強が始まった。ロールプレイでの学習と並行して、敬語が使われている能力試験の問題にも挑戦した。また、バラバラになった 4 コマ漫画を正しく並べ替える活動を取り入れることで、さらなる敬語表現への理解を深めた。
評価方法	出席、授業態度、学期末試験を総合し、ロシア人教師が評価を行った。
所見	2 年半という学習期間で初級文法を終了するクラスであることから、文法学習を中心に授業を展開した。全体的に理解力がとても高く、4 人の学生が日本への留学を果たした。毎回授業に出席できる学生と、仕事が理由でなかなか出席できない学生がおり、両者のレベルの差は大きいと感じた。

有料講座 初級	
教科書	『みんなの日本語』
授業内容	最初の 30 分でアニメ「しろくまカフェ」をロシア語字幕付きの日本語で視聴し、聞き取り問題に挑戦した。残りの 30 分間は、アニメで使われた文法を確認しながら練習問題を解いた。年末には有料講座入門の学習者と合同で書道体験と年賀状作りを行った。
評価方法	試験の実施と評価はない。
所見	学習者の日本語学習動機にはアニメや漫画が好きという理由が多かった。1 年以上学習したことのある者が対象者であり、ひらがなとカタカナ、漢字の一部は既習済みであると引き継がれていた。しかし、学習者からひらがなとカタカナに自信のなさが見られたため、文字からしっかりと再復習を行った。聞き取りは大変よくできており、アニメの内容を楽しむ余裕さえ見られた。

有料講座 入門	
教科書	『まるごと入門 A1 かつどう』『まるごと入門 A1 りかい』『にほんごチャレンジかんじ N4-5』
授業内容	最初の60分は「まるごと」の文法を学習。学習者の要望に応じて、後半の20分はロシア語でアニメ「となりのトトロ」を視聴。残りの40分で、漢字の読みと書きを学習した。最後の授業では学習者からアイデアを募り、折り紙パーティーを開催した。
評価方法	試験の実施と評価はない。
所見	日本のアニメや歴史に興味がある学習者が多かった。外国語学習に興味があり、韓国語の講座と一緒に日本語を受講する学習者もいた。授業では学習者同士がインタビューできるようにしたことで、授業内で積極的に日本語を使用して会話することができた。漢字学習に意欲的であったことから、日本語能力試験の問題にも挑戦した。

- ・ 個人指導
特になし

- ・ 課外指導
第31回モスクワ国際学生日本語弁論大会に向けたスピーチ指導。
第13回沿ヴォルガ地方日本語弁論大会に向けたスピーチ指導。
ボランティアセンターアベレグで週1回の日本語ボランティア。

アベレグ	
参加人数	14人（男性1人、女性13人）
日本語能力	日本語初級レベル
教科書	『теперь можете говорить разговорный японский язык для начинающих 日本語20時間ロシア語版』
授業内容	テキストのCDを聞いてリピート練習を行った後、ペアで会話の練習を行った。カタカナクロスワード、ひらがな当てゲーム、形容詞神経衰弱など、学習者が日本語を通して楽しめる活動を多く取り入れた。さらに、2回のお茶会、日本に留学した学生による報告会、東日本大震災に関するビデオ鑑賞、博物館で行われた居合道の様子のビデオ鑑賞も行った。最後の授業では、書道体験を行った。
所見	参加者は、主に年金を受給している年配の市民を対象としている。日本語学習の動機は、時間があるから日本語を勉強したい、娘が日本語を勉強しているから一緒に勉強したい、日本の武道に興味があるなど様々であった。ひらがなとカタカナを書く練習は一字一字丁

寧に行ったものの、日本語を書くには負担が大きすぎるとの声が上がったため、教科書を読む練習を中心に行った。
--

・反省点と今後の展望。

授業の準備に関しては大きな課題を残している。大学ではテキストを印刷することが難しく、毎週のように紙とインクを購入していた。割り当てられた教室にプロジェクターが設置されていなかったことから、任期中に私費でプロジェクターを準備した。しかし、教室が明るすぎたり、映像を映す場所が確保できなかつたりなどの問題が発生したため、上手く活用することができなかった。プロジェクターを活用することができれば、毎回部屋で大量に配布プリントを印刷する必要がなくなり、学生にとってもノートが活用できるという大きな利点があったと思う。来年度はプロジェクターの使用方法を再確認し、さらに効果的な授業方法を見出したい。さらに、プロジェクターを利用したプレゼンテーションを行わせるなど、授業の幅を広げたい。

ロシア人教師と大学でよく顔を合わせていたものの、授業や試験に関するスケジュールをしっかりと把握できず、直前になって知ることが多かった。授業内容に関する連絡についても、前日の夜に受けることが多く、夜遅くから仕事をする日も多かった。来年度はロシア人教師とさらに連携を高め、スケジュール管理をしっかりと行い、先を見通した準備ができるようにしたい。

2回の弁論大会の指導では、原稿の完成が弁論大会の直前となり、発表者の暗記を手伝うことが精いっぱいとなった。そのため、発音練習まで取り組むことができず、結果も良好とは言えなかった。今後は学習者のレベルに合わせて、早めに準備を行いたい。

生活に慣れること、契約をしっかりと結ぶこと、授業準備を終わらせることで精いっぱいとなり、授業以外の活動に取り組むことが難しかった。韓国語の講座では毎月何らかのイベントを行っており、日本語ではそれがほとんどできなかった。韓国語の先生からは「あなたがアイデアを出さなければ何もできない。」と言われ、その通りだと反省している。来年度は、報告者から積極的にアイデアを提案し、少しでもそれらを実行していきたいと思う。

(4) その他の業務

- 2018年9月 映画祭にてフォトゾーン設置。報告者が浴衣を着て観覧客と一緒に記念撮影。その後は、国際交流基金から提供された映画「まめしば」を鑑賞
- 11月 日本語履修者による日本語クイズ大会
- 12月 「国際交流基金 海外日本語教育機関支援(助成)プログラム」にて、

教材購入助成へ応募

- 1 2 月 日本語能力試験開催に際して手伝い
- 1 2 月 日本語履修学生による正月パーティー
- 1 2 月 「今年の漢字」への応募
- 2 0 1 9 年 3 月 第 1 3 回沿ヴォルガ日本語弁論大会にて質問員としての業務。
- 4 月 科学月間に伴い、国際交流基金の黒岩先生による 1 年生に向けた模擬授業と日本語教師に向けた教師研修

(5) 青年交流

派遣期間中に 2 回、日本センター「リテルス」を訪問。お茶を飲みながら日本語で会話を楽しんだ。

(6) 任地の生活事情

<電気> 2 回程停電があったが、その日のうちに復旧した。日本から持参した電気製品も、問題なく使用できた。

<水> 夜 1 1 時過ぎに突然断水になることが 2 回あったが、翌日の 9 時過ぎには復旧した。復旧後の水は茶色く濁っていたが、出し続けているうちに濁らなくなった。水道水は飲料用として使用せず、スーパーで 5 リットルのペットボトルを購入した。

<温水> 着任当日からお湯が出ず、ケトルやコンロで水を沸かして対応した。「暑い地域だから、お湯が出なくても問題ないでしょう」とロシア人教師に言われながら待ち続け、1 週間後には復旧した。その後も、数か月に 1 回お湯が出ないことがあったが、数日後には出るようになった。

<生活必需品> 食料品や生活用品・衣類は、近所のスーパーやショッピングモールで現地のもを購入した。露店でも安く購入することができるが、生ものについては注意が必要であった。日本食は現地で全く手に入らなかったため、行事や青年交流で使用したい場合、日本から持参した方がよいと感じた。

<交通の便> 狭い市内なのでバスを利用すると、4 0 分以内でどこへでも移動することができる。外国語学部のキャンパスへもバスで通勤した。ほとんどのバスは 2 0 ループル程で乗ることができる。アプリを利用して 1 2 0 ループル程でタクシーに乗ることもでき、夜の移動の際にはしばしば利用した。

<物価> 任期中に大きな物価の変動はなかった。

<気候> 夏は30度を超す日が続き、少し蒸し暑く感じた。日中は日差しが強過ぎるため、19時過ぎに散歩するのが適していた。春と秋は過ごしやすい気候であったが、あっという間に過ぎ去ったように感じた。冬は風が強いため、気温はマイナス5度程であっても、体感気温はもう少し寒く感じた。雨も雪もあまり降らず、1か月に2-3日降る程度であった。夏は蚊が多く、虫よけ対策が必要であると感じた。

<治安状況> 治安は、決して悪くはない。しかし、ロシア人教師から「夜は一人で出歩かない方がいい」とアドバイスを受けていた。町に野良犬と野良猫が多く、大学の敷地内にも頻繁に入って来ていた。冬は、食べ物を探し求めた野良犬に襲われそうになったことがあった。また、野良猫も暖を求めて、勝手に寮の部屋や教室に入ってくることもあった。

(7) 終わりに

10か月という赴任期間は、驚くほどあっという間であった。日本から遠いアストラハンという地で少しでも日本との距離を縮めたいと志を持っていたものの、まだまだ日本との距離は遠いと感じている。大学では、日本のイメージはマンガやアニメなどのサブカルチャーが占めている部分が多い。町では必ず「あなたは、中国人か？韓国人か？」と聞かれ、日本に対して何かイメージを持っている人も非常に少ない。来年度はもっと日本との距離が縮められるよう、活動の幅を広げていきたい。

最後に、不慣れな報告者を支えてくださった日露青年交流センターの皆さま、国際交流基金モスクワ暫定事務所の皆さま、在ロシア日本国大使館の職員の皆さま、同じ志を持つ派遣教師の皆さん、アストラハン国立大学の教職員と学生たち、多くの方々に感謝の意を示したい。来年度は、2018年度以上に充実した活動が行えるよう努力していきたい。